

# LAC Newsletter 国際教養コースだより No.6

Hyogo Prefectural Takarazuka Nishi Senior High School

November 6th, 2017

～10月2日実施の第2回LAC特別講座「海外で働くために」(砂原遵平氏)のみなさんの感想文を一部紹介します～



略歴:2010 関西外国語大学卒業後、金融機関に勤務  
2014～2016 JICA(国際協力機構)青年海外協力隊としてマラウイ派遣  
2016～ Bradford 大学院で国際経済学修士号取得  
2018～ OECD(経済協力開発機構)日本政府代表部(パリ)勤務予定

2年のMさんの英語の感想からです。Very Good job, thank you!

・ At first I thought Mr.Sunahara changed his job many times, but he has a big dream to work for an international cooperation agency. When we visited JICA, we heard about JICA volunteer work from the staff. Mr. Sunahara went to Malawi, and I realized he had a good experience there. His quizzes about life in Malawi were fun and gave us a lot of knowledge. I didn't know that their main food is crushed corn. They have difficulty farming because of the weather. They sometimes eat eggs, fish, tomatoes and goat meat. I think it's impressive that humans can live without electricity or gas. He also taught us the details of their lifestyle. It was easy to understand his lecture, which was very interesting. "In an inconvenient life in Malawi, they have many ideas." His words impressed me. I felt I was learning about humans' progress at that moment. I had a bad image of different cultures, but people in Malawi are very kind and beautiful. They come to see the sick for help with food. I learned there are good points in other cultures. Although there are differences between Japan and other countries, it is as important to respect people in other countries as it is in Japan.

・私は「海外で過ごすこと」を甘く見ていました。文化の違い、生活の違い、海外で過ごす時に直面する問題について今まで考えていませんでした。しかし、その違いから生まれることや助けられることなど素敵なこともあると思いました。海外に行くのは不安で、ネガティブな考えになりがちでしたが、ポジティブに切り替えて前向きに物事をとらえてみようと思いました。(1年I)

・将来、海外で仕事をしたいけれども、そんなに簡単じゃないと改めて知った。マラウイについての第一印象は、アフリカの国はほとんど貧しいと思っていて、マラウイもその一つだと思っていたが、そんなものではなかった。(略)マラウイの人々の写真を見ると、貧しい国で生活に困っているのに、笑顔で写真に写っていたり、ダンスをしたり、楽しそうだったので少しほっとした。(1年U)

・私も将来、海外で働きたいと思っています。海外は2、3年契約だということを知ってよかったです。不安定だけどいろいろな仕事ができ、いろいろな場所で自分のやりたい事ができ、と

でも魅力的だと思います。海外では公用語（英語、フランス語）と地元の言語の2つの言葉を使っているのだから私たちもきっと使えるようになれると思います。10%の電気供給、自給自足が当たり前と聞いて驚きました。（略）火おこしに2時間もかかるなんてびっくりですが、慣れたら5分でできると聞いて安心です。私は発展途上国でも働いてみたいと思っているので、火おこしや自然に合わせた生活を送ってみたいです。困っている人を助けようとするマラウイの文化に感動です。海外で働くためにはまず生活が大切だということを知ってよかったです。想像→行動をもっと実践していきたいです。英単語、毎日10個ずつ覚えるというのが将来のやりたいことに繋がっていると考えるとやる気がでできます。小さい行動ですが、いつかそれが大きな夢につながると思いました。（1年0）

・私の想像していた「海外で働く」というものは、フランス、アメリカ、カナダなどでした。そんなきらきらしているところばかり考えていました。でも、お話を聞いて、それは先進国のイメージが強いからだと思いました。そして発展途上国のために働く人たちもたくさんいることを改めて知りました。「海外で働きたい！英語を使う仕事をしたい！」と思っていたけど、どんな仕事があるかわからず漠然としていました。でも砂原さんのお話で人を助けられる仕事もあるとわかりました。私も、アフリカは貧しく病気の子どもたちが多く、食べ物なども少ないといったあまりよくないイメージを持っていました。しかし、Warm heart of Africaのように全然違う人々もいることや貧しくてもみんな助け合って生きているというプラスのイメージが増えました。私たちの勝手なイメージを持ち、決めつけるのではなく、実際に行った人の話に耳を傾け、正しい情報を知って考えることが大切だと思いました。人との関わりや日本で何不自由なく暮らせていることの幸せなど当たり前と思っていたことが、どれだけ大事なことが改めて気づきました。自分が困っているとき、助けてくれる周りの人たちを大切にしなければならないと思いました。（略）今日のお話でたくさん気づけたことがありました。将来の仕事や暮らし方など、考え方も深まり、視野が以前より広がった気がします。このような貴重なお話をまた聞きたいと思いました。（1年K）

・（砂原さんのお仕事は）2、3年契約で不安定ではありますが、自分の行きたい国に行けて好きなことができるというのは自由で魅力的だと思いました。マラウイの生活は今の私たちと真逆の生活で驚くことばかりでした。貧しい生活の中で、自給自足の生活を強いられ、インフラが整っていない環境で暮らしているにもかかわらず、穏やかで優しくいられるマラウイの人たちは偉大だと思いました。（略）今の私には行動力はないと痛感しました。「明日やろう」ばかりでつい先延ばしして結局やらないことも多く、それではいけないと改めて実感しました。マラウイの文化に「風邪をひいたらお見舞いに行く」というのが素敵だと思いました。人の温かさが表れている文化だと思います。マラウイの人々は貧しいけど困っている人がいたら助ける。私は豊かな環境で暮らしているのに困っている人を助けてあげることは少ないと感じました。自分が豊かな環境にいることは、貧しい環境で暮らしてみないと実感しにくい部分があるかもしれませんが、失う前にそのもののありがたさを知り、「今」に感謝すべきだと思いました。今までアフリカにあま

り興味がありませんでしたが、今日の講座でもっと知りたいと思うようになりました。将来海外で働くことに興味があったので、実際に経験のある人の生の声を聞けてとてもためになった2時間でした。(1年T)

・マラウイの話がとても印象に残りました。日本ではできないような経験をされていて、日本では当たり前のことが当たり前でなかったり、その逆もありとても興味深かったです。何よりも砂原さんの行動力がすごいと思いました。金融業、国際協力など様々なキャリアを積まれていて、いろいろな経験をされていると思うと、自分ももっと自分のしたいことやべきことを想像するだけでなく行動していこうと思いました。これからの将来のことについて悩むことが多いのですが、まずは思い切って行動してみる事が大事だと思いました。また、砂原さんが言われた「文化の違いに助けられる」「お互いを尊重することが大事」「人と人との繋がり大切さは世界共通」というのが心に残りました。自分がもし海外で働くことになったら、きっと差別や嫌な思いをするだろうし、つらいこともあるかもしれませんが、やはりそれ以上に助けられたときはすごく幸せな気持ちになるだろうし、仮に世界で活動することはなくても、例えば職場や交友関係についても同じようなことが言えると思うのでたくさんよいつながりを築けるようになればよいと思いました。(2年T)

・砂原さんに気づかせてもらったことの一つ目は、仕事は日本でだけでなくでもできるということです。私は将来、海外で仕事をしようとは思っていませんでしたが、その言葉を聞いて視野が広がりました。二つ目は、想像力と行動力の大切さです。世界で最も貧しい国と呼ばれるマラウイではガスも電気も通っていないし、食べ物も売られているものが少ないと聞いて驚きました。「なければ作る」ということで、自分で火おこしや食べ物を作ったりするのは本当にすごい考えだと思いました。三つ目は、人と人との繋がり大切さです。砂原さんが風邪をひいたときに、村の人がお見舞いに来てくれた話を聞いて心が温かくなりました。困っている人を助けるという考えは日本だけでなく、こういったことに文化の違いは関係ないのだと感じました。(2年T)

・最初に驚いたのは、砂原さんがいろいろな仕事をなさっていたことです。その理由を聞いて、自分のしたいことができるんだと思いうらやましくなりました。マラウイのことをきいていると、私たちは本当に恵まれていると思いました。砂原さんはアフリカに行って想像力と行動力で自給自足の生活をしていましたが、自分はそれができる気がしません。1週間ももたないうちに生きることを諦めてしまいそうです。ですが、マラウイに行った砂原さんの顔はとても楽しそうでした。見ただけでアフリカのイメージが変わりました。どこの国の人でもどんな言語を話す人でも同じ人間に変わりはないのだということを教わりました。私は海外に行く勇気がありません。理由は自分の英語能力に自信がないことと、海外へ行ってうまく人と関わることができないんじゃないかと思っています。ですが、これは全部自分の想像力と行動力によってどうにかできるのではないかと思います。(2年U)

・今日のLAC講座で、どこの国に行くとしても自分でやり方を考えて、その国のことを受け入れ、慣れていくことが大切だと思いました。砂原さんが、JICAで行かれたマラウイは「世界で最も貧しい国」と言われており、電気・水道・ガスが通っておらず、自給自足の生活を送っているようですが、それでも「こんな国嫌だ」と思うのではなく「こんな中でもどうにかして生活をしよう」と思うことが大切だと思いました。(略)自分で種を買ってきて作ったり、鶏を買って毎日卵を産ませたりといろいろなアイデアで生活していました。想像力と行動力が必要だと何回も砂原さんはおっしゃっていました。本当にその通りだと思います。何かをするときに行動を起こさなければ何も始まらないと思います。また、行動してみないとわからないこともたくさんあると思います。砂原さんも、アフリカと聞くと内戦で貧困などマイナスイメージを持っておられたようですが、実際に行ってみるとマラウイの人々はすごく優しく穏やかで、独立してから一度も紛争がなく、何回もマラウイの人に助けられたとおっしゃっていました。驚いたのは、風邪をひいたときに20人もの人がお見舞いにたくさん食べ物を持ってきてくれたことです。困っている人を助けようとするマラウイの文化は本当にすてきだと思います。自分がどこか違う国に行ったときにはその国の文化を受け入れ大切にしたいと改めて思いました。文化の違いに苦しむことがあっても、それをどう楽しくするかは自分にかかっていると思いました。(2年H)

・海外は基本的に自給自足、形は違えど、どこにでも言えること違うかなあ。農業とかはしなくても、自分で稼いで学校に行っている人だっているし、自分でものを作り出して生活をより豊かにしている人もいます。学生のうち大半が親に助けられているのは日本ぐらいじゃないかと思います。(略)「なければ作る。想像力+行動力」と聞いたときは、将来、プログラマー志望の自分(の心)にはさきりました。クリエイターも、「想像力+技術力」だと思っていたので、ただそこに発信力が追加されたというところでしょうか。思いついたことをやる、思いついたものを思いついたままに創れるというのは必要なことかなと。今までのLAC講座で一番良い機会だったと思います。(2年S)

☆砂原遵平氏に、感想文と質問を送ったところ、丁寧な回答を頂きました。言葉を学ぶ過程で大切なことに気づかせてもらえると思います。ぜひ参考にしてください。

- 【生徒からの質問】**
1. 新しい就職先はどうやって決定していきますか？すぐ決まるのですか？
  2. プログラムの期間中に新しい職場の面接をすることができましたか？
  3. 砂原さんは、高校生の時から英語が話せたのかどうかお聞きしたいです。

**【砂原氏の回答】**

1. 基本的にはPartnerという国際協力業界の就職サイトを使って、「自分のやりたい仕事」、「行きたい国」を明確にしたうえで応募します。書類選考、面接を経て決まるので、通常1~2カ月ぐらいの期間を経て決まります。
2. はい、できました。例えば私が今度派遣されるパリの仕事は、イギリス大学院に所属している際に面接を受けて合格をもらいました。最近ではSkypeなどのテレビ電話を使って面接をしてくれる企業もあります。

3. 高校生の時は全く英語が話せませんでした。大学も関西外大を卒業していますが、大学の時もちゃんと勉強せず、ろくに英語も話せない学生でした。しかし、今では英語で議論やスピーチができたり、修士論文といって大学院で書かないといけない英語の論文も書き上げました。

英語は言語です。みんなが日本語をすらすら話せたりかけたりするように、英語も訓練を積みめば誰でも話せて書けるようになると私は思っています。みなさんがどうやって日本語を学んだか思い出してください。幼稚園児の時は失敗や間違いなど考えずに好き放題日本語を話していませんでしたか？小学校の時は、国語の授業で文法や漢字（単語）をたくさん覚え、家では教科書を音読し、読書感想文や修学旅行などの作文を書きませんでしたか？中学校の時は、先輩や先生に対して敬語を使いませんでしたか？授業で議論やディベートをしませんでしたか？漢字ドリルをこなして四字熟語や難しい漢字を覚えませんでしたか？英語の学習も同じです。始めは、幼稚園児みたいに、失敗を恐れずに好き放題に話す（話す事への抵抗をなくす）。次は、小学生のように文法や単語を覚える。英語の本の音読を繰り返す。小学生の遠足の作文のような簡単な作文を英語で書く。次に、中学生がするように、英語の雑誌や映画、ドラマなどの教材を音読する（いろいろな表現を身につける）。友達や先生と英語で議論する。そして、高校生がするように、熟語や難しい単語を覚える。映画やドラマ、TED などいろいろな英語を聞く。上記はあくまで一例ですが、私は自分が日本語を習得したのと同じように英語学習を積み上げ、話せるようになりました。



#### 第3回LAC特別講座についてのお知らせ

日時：12月14日(木) 短縮授業時の3, 4限  
講師：立命館大学国際関係学部准教授 クロス京子氏  
テーマ：「平和とは何か～複雑な世界を読み解く方法」  
課題：「平和である条件や状況とは？」あなたの言葉で定義を考えてきてください。